

報道関係者各位

press release

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

2025 年 3 月 17 日
PRESS-25-08

ノボ ノルディスク ファーマ、旭市 (千葉県) および千葉大学医学部附属病院との「Cities Changing Diabetes (都市に蔓延する糖尿病の克服)」プログラムの論文第 2 弾を「公衆衛生」にて発表

官民学連携、市内横断的プロジェクトチーム、市の総合戦略への反映の意義を考察

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 (代表取締役社長: キャスパー ブッカ マイルヴァン、本社: 東京都千代田区) は、ノボ ノルディスクがグローバルに展開する「Cities Changing Diabetes^{※1} (都市に蔓延する糖尿病の克服)」(以下 CCD) の日本で 2 番目の取り組みとなる旭市 (千葉県) および千葉大学医学部附属病院とのプロジェクトの論文第 2 弾を、「公衆衛生」(Vol.89 No.4) (<https://www.igaku-shoin.co.jp/journal/401>) に掲載したことをお知らせいたします。

糖尿病とともに生きる人々の数は、2021 年に全世界で 5 億 3700 万人を突破しています¹。糖尿病の治療目標は「糖尿病のない人と変わらない寿命と QOL (Quality of Life)」です²。そのためには糖尿病の発症予防と重症化予防が重要になります。しかしながら、現在の糖尿病予防施策は必ずしもうまく機能していません。

そこで、ノボ ノルディスクは社会に対する責任として、都市環境における深刻な慢性疾患を予防するための行動を推進する官民パートナーシッププログラム「CCD」を全世界で展開しています。日本では 2021 年に旭市民の健康増進を図ることを目的として「旭市における糖尿病対策に関する包括連携協定」を旭市、千葉大学医学部附属病院と締結し、官民学連携で本プログラム (以下「CCD 旭」) を推進しています。

「千葉県旭市における官民学の連携を通じた地域糖尿病対策プロジェクトの取り組み: 市民啓発から政策反映まで」と題した本論文では、官民学が連携し、「住んでいるだけで自然に健康になれるまち」の実現に向けた「CCD 旭」の糖尿病発症予防と重症化予防の取り組みを紹介しています。

発症予防では、旭市市内横断的プロジェクトチームの結成、市民向けの糖尿病啓発イベントの開催やブース出展、広報活動などを行っています。重症化予防では、地域共通の栄養指導用リーフレットの開発、糖尿病性腎症重症化予防プログラムの推進、特定健診・後期高齢者健診での塩分摂取量調査などを実施しています。また、2025 年 4 月から始まる旭市第 3 期総合戦略の重点プロジェクトの中において、本プロジェクトが明記されるなど、今後の継続性、発展性が期待されています。2024 年には厚生労働省・スポーツ庁主催の アワードで受賞するなど、対外的に取り組みが評価されています。

本論文の責任著者である千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター 特任講師の飯田 英和氏は、次のように述べています。「CCD 旭は、官民学がそれぞれの強みを発揮しながら連携することで、糖尿病の発症予防および重症化予防の両面で重要な成果を上げています。また 2025 年 4 月からの旭市の総合戦略

の重点プロジェクトの一つに CCD が位置づけられ、今後も継続的に旭市の糖尿病予防に貢献できることを期待しています。」

「CCD 旭」では今後とも、持続可能な健康政策の推進とプロジェクトの事業化を通して、最終目標である「住んでいるだけで自然に健康になれるまち」を目指して活動してまいります。

※1: 「Cities Changing Diabetes (都市に蔓延する糖尿病の克服)」は、2024 年に名称を「まちが元気を創り出す ~ Cities for Better Health~」に変更しましたが、旭市と実施している本プロジェクト名は「CCD 旭」を維持していません。

「まちが元気を創り出す ~Cities for Better Health~」(旧称: Cities Changing Diabetes (都市に蔓延する糖尿病の克服)、CCD) について

「まちが元気を創り出す ~Cities for Better Health~」(以下 CBH) プログラムは、パートナーシップを通じて都市環境における深刻な慢性疾患を予防するための行動を推進する官民パートナーシッププログラムです。ノボ ノルディスクは、世界 50 都市以上において、予防に対するパートナーシップを構築し、意義のある行動を推進することを支援しています。この予防への取り組みを通じて、地域における健康格差を解消し、持続可能なヘルスケアシステムを構築することを目的としています。日本においては、2018 年から福島県郡山市、2021 年から千葉県旭市で CBH を実施しています。本プログラムは、2024 年に名称を「Cities Changing Diabetes (都市に蔓延する糖尿病の克服)」から「まちが元気を創り出す ~Cities for Better Health~」に変更しました。

詳細はウェブサイトをご覧ください。(<https://www.novonordisk.co.jp/sustainable-business/society/cities-changing-diabetes.html>)

「CCD 旭」について

「CCD 旭」では、官民学 (旭市、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社、千葉大学医学部附属病院) が連携し独自の地域糖尿病対策プロジェクトを展開しています。

まず始めに定量的、定性的な調査から健康課題を明らかにし、それに基づき糖尿病発症予防、重症化予防の二つの視点でプロジェクトを立案しています。発症予防では、旭市役所職員 16 名の庁内横断チームを結成し、市民への糖尿病に関する健康啓発、行動変容を促すプロジェクトの立案、実行を行っています。重症化予防では、旭匠瑳医師会、旭市歯科医師会、旭匠瑳薬剤師会、旭中央病院をはじめ地域の関係機関を巻き込み、地域の糖尿病重症化予防に関する課題解決や実態調査を行っています。

今後はこの取り組みを旭市の総合戦略に取り入れながら、健康づくり全般の活動として継続していく予定です。

参照資料

1. International Diabetes Federation. (2021). IDF Diabetes Atlas 10th Edition. <https://diabetesatlas.org/atlas/tenth-edition/>
2. 日本糖尿病学会. 糖尿病治療ガイド 2022-2023, p.31, 2022 年

ノボ ノルディスクについて

ノボ ノルディスクは、1923年創立のデンマークに本社を置く世界有数のヘルスケア企業です。私たちのパーパスは、糖尿病で培った知識や経験を基に、変革を推進し深刻な慢性疾患を克服することです。その目的達成に向け、科学的革新を見出し、医薬品へのアクセスを拡大するとともに、病気の予防ならびに最終的には根治を目指して取り組んでいます。ノボ ノルディスクは現在80カ国に約76,300人の社員を擁し、製品は約170カ国で販売されています。日本法人のノボ ノルディスク ファーマ株式会社は1980年に設立されました。詳細はウェブサイトをご覧ください。(www.novonordisk.co.jp)